

ことしの予算は



自主財源の確保のため村が進めているコンブ堆肥事業=和野山地区

特産品の開発で 収入を確保

もう一度前年のグラフを見てください。歳入には依存財源と自主財源があります。

地方交付税や国庫支出金、県支出金などの依存財源は86・2%を占めています。これに対し村税や諸収入などの自主財源は13・8%となつて

います。

国でも膨大な財政赤字の累積などから今後、地方交付税が増えることは難しい状況です。

このため村では、新たな財源を確保しようと、養殖コンブの未利用部分を活用した「コンブ堆肥」のさらなる開発や「普代村こんぶ饅頭」の販売などに力を入れて取り組んでいます。また、「広報ふ

19年度の支出が多いものベスト3

順位	事業名	事業費	財源内訳			
			国庫補助金	県支出金	地方債(借金)	村
1位	県営普代地区農地開発事業債務負担金	6,674万円				6,674万円
2位	地域水産物供給基盤整備事業(白井漁港)	3,000万円	1,500万円		1,500万円	
2位	広域漁港整備事業地元負担金(太田名部)	3,000万円			3,000万円	
3位	村道堀内机線改良工事、設計委託	1,700万円			1,700万円	
3位	村道普代鳥居線改良工事、設計委託	1,700万円			1,700万円	

条件のいい借金で 漁港や道路を整備

左の表を見てください。本年度の支出が多いものベスト3です。

見ていただきたいのは2位

「だい」で広告を掲載しているのも、額は少ないですが自主財源の確保に取り組んだものです。

からの事業の財源内訳のところ。これは事業を行うお金をどこから工面しているか表しているものです。

2位の白井漁港の整備は、県からの補助金1500万円と国からの地方債(借金)1500万円を合わせた3000万円で行います。しかし、この地方債はあとで国から約45%戻ってくる仕組みになっています。実際の村からの持ち出しは800万円くらいになります。

その下の太田名部漁港の整備は、県が行う工事なので、地元の負担金とし事業費3億円の10分の1の3000万円を県に支払うことになりました。国が5割、県が4割、村が1割です。この村分の1割は国からの借金で賄っていますが、約45%、1350万円は戻ってくるお金です。3位の堀内机線、普代鳥居線の道路工事も同様です。

このように村では後からお金が戻ってくる「条件のいい借金」で皆さんが必要とする事業を本年度も展開していきます。

(次ページへ)